

とき：2023.09.21.14:10-15:10

場所：上智大学中央図書館9階921会議室（東京都千代田区）

ソーシャルワーク実習スーパービジョン勉強会（主催：上智大学社会福祉学科）

テーマ「スーパービジョンの楽しみ：この30年を振り返って」

上智大学 岡 知史

1. [「楽しさ」と「楽しみ」の違い](#)
2. [「楽しみ」を体感していただきたい](#)
3. [「楽しみ」は実習の「楽しさ」につながる](#)
4. [実習の「楽しさ」が福祉実践の「楽しみ」につながる](#)
5. [1987年度から実習指導を行う（当時の実習の様子）](#)
6. [松本栄二先生のスーパービジョン論](#)
7. [スーパービジョンの楽しみ① 現場の指導者からの学び](#)
8. [援助動機について](#)
9. [福祉機関を変えること](#)
10. [文学研究とクライアントの理解](#)
11. [スーパービジョンの楽しみ② 学生たちからの学び](#)
12. [「死ね！」に共感できるか](#)
13. [「実習生とは話さないタイプ」](#)
14. [スーパービジョンの楽しみ③ 実践からの学び](#)
15. [要介護者の家族、経済的な困難](#)
16. [まとめ](#)

みなさま、たいへんご多忙のなか、スーパービジョン勉強会に出席いただきまして、ありがとうございます。私は現在、社会福祉学科の学科長をしております岡知史と申します。実習先訪問等で、みなさまには、何度かお会いしていることが多いと思いますが、

よろしく願いいたします。

ソーシャルワーク実習スーパービジョン勉強会

2023.09.21. 14:10-15:10 @ L-921

スーパービジョンの楽しみ

この30年を振り返って

上智大学 岡 知史

それで、いまも少し申し上げましたが、学科長をしている関係で、ご案内も私の名前で出しまして、それで私の講演を案内するという、ちょっと異例の形になりました。なんか他の方法がないかなと思ったのですが、なかなか良いアイデアも見つからず、それで、私の名

前で私の講演のご案内を差し上げるという、なんだか、ずうずうしい形になりました。

さて、ご案内にも書きましたが、私は今年度で65歳の定年退職を迎えます。それで、最後に何か話せという学科の教員のご依頼といたしますか、ご注文といたしますか、そういうものがありました。

私自身も、上智大学で長年、実習を担当してきましたので、最後には何か話したほうがいいのかなと思ひまして、喜び勇んで、というわけではないのですが、このご依頼を受けることにいたしました。

それで今回のタイトルなのですが、実習担当職員の石井さんから「タイトルをどうしますか？」と聞かれて、もうすぐに案内状を出さなければいけないということで、とっさに思いついたのが、「スーパービジョンの楽しみ」というタイトルでした。

ちょっと間が抜けたというか、緊張感がないタイトルですよ。スーパービジョンの最新理論を紹介する！とか、将来の社会福祉の担い手をどう育てるべきか！とか、ガツンと、頭にくるようなタイトルではないことは、確かですよ。

特に、この「楽しみ」って、なんか間が抜けていますよね。そうはお思いになりませんか。タイトルをこれに決めてしまってから、あとで考えてしまってますね、どうして、こんなに力が抜けた言葉になるのかなと考えまして、、、それで、ネットで見つけたのが、このページでした。

「楽しさ」と「楽しみ」の違い



あ、そうか、スーパービジョンの「楽しさ」というと、ちょっと違ってくるのかな、と。

じゃあ、「楽しさ」と「楽しみ」とは、どう違うのかということですが、この「違い比較辞典」によると、こういう違いがあるそうです。



つまり「楽しさ」というのは、客観的で誰でも同じように楽しいと感じるもので、たとえば、大学生活の「楽しさ」とかね、いいますでしょ。「楽しさ」というのは、程度の差はあっても、みんなが認めるものだというのですよ。

それに対して「楽しみ」というのは、主観的な、個人的なものだというのですね。たとえば、老後の「楽しみ」とかね。

私なども定年退職したら何をしたらいいのかと、ちょっと想像がつかなくて困っていますが、たとえば、朝から近くの公園に行って、ベンチで座って、子どもたちが遊んでいるのを見て、「まあ、これが私の老後の楽しみなんですよ」とか、いいますよね。朝から公園のベンチに座って、どこの誰かもわからない他人の子どもが遊んでいるのを見て、どこが面白いんだと言う人もいるでしょう。でも、いや、それが「私の老後の楽しみなんですよ」と言えば、それで問題はないですよ。

つまり、「楽しみ」というのは、主観的なこと、個人的なことで、私の場合は、そうなんだ、ということなんですからね。

「スーパービジョンの楽しみ」というのも、そう理解していただきたいわけです。「スーパービジョンの楽しさ」というと、みんな、それが楽しいはずですよ！という話になりますでしょ。「いやいや、スーパービジョンなんて普段の業務に加えて負担になるばかりで、何が楽しいものですか！」と反論されるかたもいらっしゃると思うのですよ。

でも、いまからお話するのは、「スーパービジョンの楽しみ」なんです。私自身が「楽しみ」にしていることなんです。だから、「みなさんも楽しいはずだ」とは、言いません。私が言うことが、みなさんにも当てはまるはずだとも言いません。

では、なぜ、私の個人的な「楽しみ」みたいなことを、この貴重な場を使ってお話するのかというと、これなんです。

「楽しみ」を体感していただきたい

みなさまに、スーパービジョンの「楽しみ」を体感していただきたいということです。スーパービジョンのどこを、どう楽しいと感じるのかは、それは人によって、あるいは現場によって違うと思います。



なので、私は、私の体験をお話しますので、「ああ、同じだな」と思われるかたもいらっしゃると思いますし、「それは違うけど、自分だったら、別のところを楽しいと思うだろうな」とか、私の話をヒントにして考えていただきたいということですね。

ちょっと話は飛びますけど、私は大学で研究しているテーマ

は、自助グループなんです。患者会とか、障害者の会とか、私がいま、いちばんかかわっているのが、自死遺族の会ですが、自助グループでの「学び」というのは、実はこういう形なんです。

つまりグループのなかで自分の体験を話すのですよね。その自分の体験が他の人の役にたつかどうかは、わからないんです。自助グループとか、セルフヘルプグループと呼ばれている会は、外からみると、みんな同じような体験をしている人たちの集まりなんですけど、中の人たちからみると、みんな違う体験をしているんですよ。

たとえば、同じ病気の人が集まっているグループでも、病気の状態とか、出てくる症状は、人によってかなり違うことが多いですし、それぞれ家族の状況などは、ぜんぜん違いますからね。だから同じ病気の人々の体験でも他の人には、あまり役立たないということは、よくある。

じゃあ、どうすればいいかという、それぞれの人が、それぞれの体験を話しますよね。そして、それを聞いている人が、自分の判断で「あ、これは同じだな」「あ、これは違うな」「どうして違うのだろうか」とか考えていくわけです。

長年、自助グループを研究していると、考え方そのものも自助グループの考え方に似てしまうのですよね。古代ローマ人の研究をしている人が、現代の日本で生きていても古代ローマ人のような物の見方をしてしまうのと同じかもしれません。

話は回り道しましたが、そういうわけで、スーパービジョンの楽しみ、というのは、私の個人的な、主観的なお話になりますけれども、そこから、みなさま、それぞれスーパービジョンの楽しみを見つけてもらいたいというのが、私の今回のお話の趣旨なのです。

でも、そんなことが、どうして重要なんでしょうか。「スーパービジョンの楽しみを見つけるなんて、どうでもいいことで、スーパービジョンの新しい理論とか、新しい技術とか、そういうことを学びたい!」と、おっしゃるかもしれませんね。

もちろん、それも大事なことだと思いますが、私は、この「楽しみ」を知ることも大事なことだと思っています。その理由としては、私が考えたのは、これです。

「楽しみ」は実習の「楽しさ」につながる

学生さんの実習の楽しさにつながるから、ということですね。言うのが遅れましたが、ここで言うスーパービジョンというのは、職場のなかで職員間で行うスーパービジョンではなく、あくまで実習生へのスーパービジョンという意味です。



学生たちが実習が「楽しい」というのは、いろんな理由がありますが、大きなことのひとつは、学ぶことができているという実感があることだと思います。

そして、その実習先での学びは、やっぱり実習指導の先生方といろいろお話ができることからの学びが多いと思います。

資料を渡して、「はい、これ読んでおいて」ということだけでは、なかなか学生たちの学びは深まりません。また現場を見ていて、ということも、基礎知識がないと、見ていても、何も見えてこないのですね。なので、やはり時間をとって学生とお話していただく必要があります。

でも、福祉の現場はとても忙しくて、なかなか実習生に割ける時間がとれないということも何度も聞いております。

そこで私が提案したいのは、みなさま、それぞれに実習スーパービジョンの楽しみを見つけていただくということです。楽しみが見つかれば、自然にスーパービジョンに時間を割こうというお気持ちにも、なることがあるのではないかと私は考えています。

同じことは、大学の教員にも当てはまると考えています。実習のスーパービジョンを、どれだけ一生懸命やっても、一般的には大学からは、あまり評価されないということは、残念ながら事実だと思います。大学から評価されるのは、もっぱら論文を書いたり、本を書いたりする研究活動であって、教育活動ではないし、特に実習教育は、あまり高く評価されていないように思います。

なので、どうしても負担に感じてしまうことが多いと思うのですが、そういう場合にこそ、スーパービジョンの楽しみを、それぞれの教員が見つけていく、ということが大事になってくるのではないのでしょうか。そうすることによって学生に実習の楽しさが伝わってくるように思います。

要するに、教員のほうで「実習指導って、たいへんだなあ、負担だなあ」と思っていたら、どうしても、それが学生、実習生のほうに伝わってしまう。そうすると、実習生も、実習を楽しく思いにくいのではないかと思うのですよ。

実習の「楽しさ」が福祉実践の「楽しみ」につながる

それから、学生たちが実習において「楽しさ」を感じることは、とても大事なことだと、私は思っています。なぜなら、それが「福祉実践の楽しさ」を感じるようになることに通じるのだと思いますし、そうすれば、学生たちが、卒業後、福祉実践に携わりたいと思うようになると思います。



8

そこで、みなさんに考えていただきたいのは、みなさんは、「スーパービジョンの楽しみは何ですか」と聞かれたら、どうお答えになりますか。どうでしょうか。(ここで問題1を考えていただく。)

最初に申し上げた通り、「スーパービジョンの楽しみ」というのは、「楽しみ」であるかぎり、主観的な、個人的なものだということ、みなさま、それ

ぞれのお答えがあると思うのですね。

それで、今から私の楽しみについて、お話をさせていただきますが、それで、みなさま自身の楽しみについて新たな発見があったり、「ああ、これも楽しみだなあ」と気づいてくだされば、それは、とても嬉しく思います。

私の楽しみなのですが、このように3つに分けてみました。



スーパービジョンの楽しみ

1. 現場の指導者からの学び
2. 学生たちからの学び
3. 実践からの学び

10

第一に現場の指導者、つまり、これは本日あつまっていたいたみなさまのことですが、学生たちを現場で指導してくださっている方々からの学び。それが私のスーパービジョンの楽しみの一つになっています。二番めは、学生たちからの学びですね。そして、三番めには、実践からの学びとしておきました。順番に説明したいと思います。

[1987年度から実習指導を行う（当時の実習の様子）](#)

まず現場の指導者からの学びですが、私が実習指導を上智大学で始めたのは、ずいぶん昔で1987年度のことでした。「助手」という職種で上智大学に雇用されまして、まず、やったのが、実習指導ということでした。



スーパービジョンの楽しみ

1. 現場の指導者からの学び
 - 1987年4月～「助手」として
 - 松本栄二先生の指導のもと
 - 4年生に85日の実習（必修）

11

では、どういう形で実習指導をしていたかという去年の三月に亡くなられましたが、松本栄二先生という方が、上智大学の名誉教授としていらっしゃったのですが、その方の、まさに助手として松本先生がスーパービジョンをされているのを、ずっと見ているということで同時に実習先訪問とかを行うという、そういう形でした。

松本先生は、上智大学の実習教育の基礎を作ったとされている方で、カナダのソーシャルワークの大学院を出られて、そこで学んだ実習教育を大学で展開したということなんですね。

1980年代は、社会福祉士の制度もなかったので、社会福祉学科で実習を重視しているところは少なかったと聞いています。上智大学の社会福祉教育というのは、まずは実習なんだということで4年生に85日間の必修科目として実習を行っていました。

いまの上智では30日間の実習が選択科目になっていて、それでも学生たちは、たいへんだ！と言っているのですが、その当時は85日間ですからね。85日間を1箇所で行う人もいましたが、50と35ということで2箇所行く人もいました。

こんなに長い実習を受け入れてくれるところなんてあったのかと疑問に思われるかもしれませんが、いっぱいありましたね。いまだと23日の実習期間でも受け入れてもらえなくて、いろいろ探したりすることがあるのですが、当時は85日間でも、そんなに困ることは無かったような感じでした。どうしてだと思いますか。

三つほど理由があると思います。ひとつは、当時は他の社会福祉学科は、実習をほとんどやっていなかったから、実習先は実習生がいないことがほとんどで、ガラガラだったということです。

ふたつめは、上智大学は、実習教育を重視していたし、他の大学から実習にくることもなかったもので、実習先との信頼関係が非常に厚かったです。「ちょっと、お願いしますよ」という感じで電話すれば、受け入れてもらえたということがありました。

みつめは、社会福祉士養成課程のしびりが無かったから、大学のほうで、これは重要な福祉の仕事をしているし、ここの職員のかたは非常に深い見識をもっていられると考えれば、そこが実習先になったのですね。社会福祉法人ではない団体もあったし、非常に先駆的な試みを行っている団体で、しっかりと社会的な責任を果たしてくれるようなところであれば、どんどん実習先として認めていたというところもありました。

ということで、実習先を見つけることに苦労する、というのは、社会福祉士制度ができたあとのことなんですね。

その85日の必修の実習のプログラムを作り上げたのが、この松本先生でした。この先生は、大学の教員を定年退職してからも大活躍されて、認知症の方々の先駆的なグループホームの創設と運営で、日本認知症ケア学会・認知症ケア賞という大きな賞をとられたのですが、それはともかく、この松本先生の指導のもとで実習指導をすることになったんですね。

[松本栄二先生のスーパービジョン論](#)

この松本先生という方は、卒業生のかたはみなさんよくご存知のように、とても強烈な個性の方で、福祉について、ものすごくはっきりとした信念というか、考え方をされていた人でした。ここで、ちょっと松本先生のスーパービジョンの考え方を説明しておきますと、

スーパービジョンの楽しみ

松本栄二先生のスーパービジョン論

- **SVを受けたことがない人間にはSVはできない。**
- **自己覚知が中核。**
- **教育分析の要素。**

12

まず、「SVを受けたことがない人間には、SVはできない」というのが、松本先生の持論だったように思いますね。たとえば、SVをどうするか、なんてマニュアルがあつたりしますよね。あるいは、SVの仕方の講習会とかあつたりしますでしょ。でも、そんなものじゃだめだ、自分がSVを受けたことがなくて、どうやってSVができるんだというのが、松本先生の考え方であつたように思います。

私も、それに賛同するところがありますね。たとえば、たまたま偶然知り合ったかで、けっこう有名な大学で社会福祉実習の指導を主な仕事としている、つまり実習講師というものです。そういう仕事をしている若い人といろいろ話したことがあるんですね。その人の専門は、社会学なんですよ。社会福祉じゃない。だから福祉の実習なんて自分自身はやったことがないんですよ。でも、社会学専攻で博士号を持っているから、大学の教職ということで福祉実習の指導ということをやっているんですよ。

その方自身は、とても人間的には魅力的な方でしたが、実習をやったことがないし、そもそもソーシャルワーカーをやったこともない人なのに実習の指導ができるんだろうか、と思いましたね。

でも、こういうケースは、よくあると思います。専門が、社会学とか、臨床心理学とかなのに、大学としては、それでも実習指導はできると考えているのでしょうか。これは、大学として実習教育を軽視している現れじゃないかなと私は思っています。

とにかくSVを受けたことがない人間にSVができるはずがない、ということで、実は、私自身がもともと理系の大学を卒業してしまして、社会福祉を学ぶために日本社会事業大学に編入学したのですが、実習をしないまま、社会福祉学専攻の大学院に入ってしまったので、結局、実習は自分ではやっていないんですよ。それで松本先生は、それを問題視されていて、とにかく自分のSVをじっくりと見て学びなさいと。そうことだったので、

福祉実践も、大学の研究も、マニュアルを見て、教科書を見てできるようなものではないですよ。先輩というか、先生になる人のそばについて、その実践を直接みさせていただいて、それで学んでいくものですよ。

そういう意味で、私は松本先生のSVを1年間じっくり見せていただくという機会を得て、そして次の年からは、私ひとりでSVを始めたのですが、やっぱりダメだと思われたのか、3年目になると、また松本先生の授業でSVの仕方を見て学べ、ということになり、計2年間、松本先生をお師匠様としてSVについて学んだということになります。

この松本先生のSVのテーマが「自己覚知」なんですよ。「自己覚知」「自己覚知」って、ずっと先生は、言い続けていましたね。「教育分析」ということも言われていました。教育分析って、ご存知でしょうか。援助職につく人々が受ける心理分析のようなものですね。人を援助するためには教育分析を受けなければいけない、というのも、松本先生の持論でした。

そのころの上智大学は、私も含めて実習を担当している教員は3人だけで定員50人(いまは定員60人ですが、その当時は50人でした)の学生全員が、85日の実習をすることを指導していたわけです。

85日の実習では、児童から、障害者から、高齢者、地域と、さまざまな分野で実習をしますでしょ。でも教員は3人だけだから分野で担当を分けないんですよ。大学によっては、児童の実習は、誰それ先生、高齢者の実習は、誰それ先生と分けるところもあるようですが、上智は分けなかった。いまでも分けていません。

そうすると、分野が違うところで実習をする学生が、大学のスーパービジョンで集まってくるんですね。この人は児童施設で、この人は高齢者施設で、というように。すると、共通するのは、自己覚知ということに当然なるわけですよ。逆に言えば、学生たちが、みんな違う種類の実習先に言っているけど自己覚知ということは共通なんですよ。だから自己覚知を中核としたスーパービジョンは、その当時の上智大学の実習教育によく合っていたと思うのです。

また松本先生が教育をうけた、その当時のカナダでは、ソーシャルワークは精神分析学の影響をとっても受けていたように思います。なので、よく松本先生は、学生たちの意識していない部分、とくに防衛機制、ディフェンス・メカニズムといいますが、そこを明らかにしていくようなアプローチをよく使っておられたように思います。

スーパービジョンの楽しみ① 現場の指導者からの学び

話をもとに戻しますと、私が、そんなふうに松本先生の指導を受けてSVをしていたのは、私が28から30のころでして、まだ若かったですね。ですから、実習先に訪問しますと、実習先の指導者のかたが、いろいろ教えてくださるのですよ。

いまは、私は、もう今年度で退職ですので、60をとっくに超えているわけですけど、20代、30代前半のときは、実習の指導者のかたのほうが私より年上で、実習先の訪問のたびに、いろんなことを教えていただきました。ちょっと、いますぐに思い出せることを3つばかりあげてみました。

[援助動機について](#)

まず、援助動機について、というのは、あるベテランのワーカーのかたが、おっしゃるには、その方は、もともと物理学学科に進みたかったとおっしゃるのですね。私が、もともと理系だったという話から、そういう話をされたのかもしれませんが。

そして物理学科を選択したのに入試では落ちてしまい、社会福祉学科になってしまった。その大学は、物理学科も、社会福祉学科も、同じ枠にはいついて、上位の成績順に希望のところに入れるようになっていたというのですね。

スーパービジョンの楽しみ

1. 現場の指導者からの学び

- 援助動機について



ちょっと変だなと思いましたが、とにかく、その方は、そうおっしゃっていたんです。それで特に社会福祉に興味がなかったんですけども、社会福祉学科に入った。それで、いまは、ソーシャルワーカーとして働いている。

その方は自分の実践をもとに本も出している、たいへん有名な方だったのですが、その方の持論が、

13

社会福祉学科に入りたいと思わなかった学生のほうが良いソーシャルワーカーになるんだ、ということでした。まあ、ご自分のことをおっしゃっているんですけどね。

その人がおっしゃるには、自分の社会福祉学科の同級生の多くは社会福祉学科に入りたいと思って、社会福祉学科に入ってきた。でも、結局、卒業しても、ソーシャルワーカーとして活躍できている人が少なかった。一方、私は（その人は）、もともと社会福祉学科に入りたいと思わなかったんだけど、もう定年近くになっても、ずっとソーシャルワーカーとして働いている。それは、なぜだと思うか。それを考えてみなさい、と、おっしゃった。

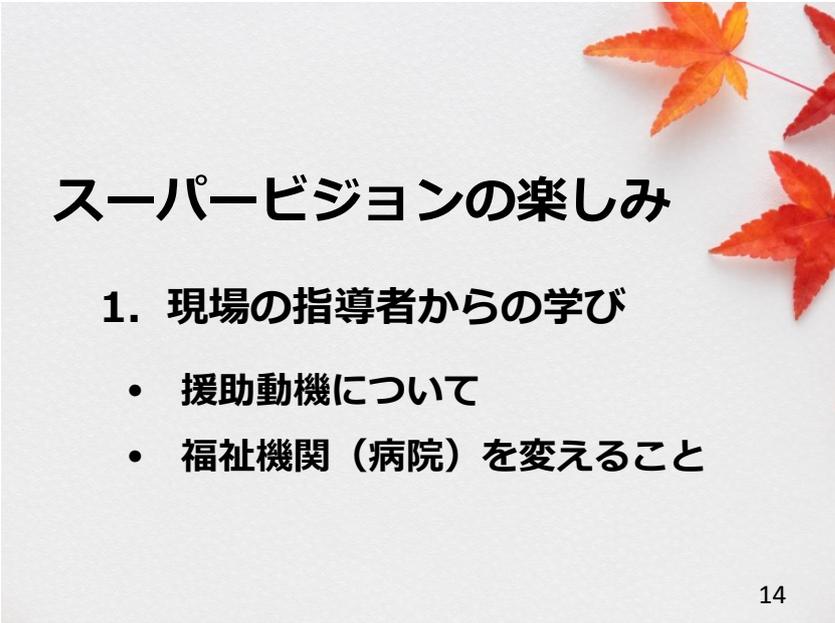
はっきりとした答えは聞かなかったように思うのですが、おもしろい指摘ですね。私の経験だけでいえば、社会福祉学科に入りたい、将来、社会福祉の仕事をしたいと強く希望する人のなかには、人を助けて感謝されたい、という気持ちがあったりするわけですね。

でも、実際の現場のなかでは人を助けても感謝されないことはいっぱいあるわけですね。また、そもそも人を助ける、支援するということが簡単なことではないし、やってみて果たして助けたことになったのだろうかと思ってしまうケースも多いと思います。

あるいは、人の援助にかかわりたいという動機、それを援助動機というのなら、それには、いろいろ健全なものもあれば、人間の支配欲とかが隠されていたりする不健全なものもあるわけです。そういったものを考えてみなさい、というヒントだったと思うのですね。

[福祉機関を変えること](#)

あとは福祉機関（病院）を変えること、と書いておきましたが、学生は、実習機関、この場合、病院でしたが、そこにきたら、じゃあ、ソーシャルワークをやってください、という環境になっていると思ってるんじゃないか。しかし、ワーカーが、まずやるべきことは、そのソーシャルワークができる環境を自分自身でつくっていくことなんだ、と。



スーパービジョンの楽しみ

1. 現場の指導者からの学び

- 援助動機について
- 福祉機関（病院）を変えること

14

これは病院のソーシャルワーカーのかたが、私におっしゃったことなんですが、医者とか看護師の教育課程で、ソーシャルワーカーがどういうものかを学んでいるわけではないし、学んだところで覚えていないよ、と。

だから、まずはソーシャルワークというのは、どういうものかを、同じ機関の他

の専門職にわかってもらうこと、理解させること、それをやらなければいけない。それは簡単なことではないから、それだけのことを、やろうという意気込みをもつように、学生を教育すべきだと、おっしゃいました。

これは私の印象に強く残ってしまっていて、私はグループワーク（ソーシャルワーク論Ⅲ）という科目を持っていますが、通常はグループのなかで、どんなふうにも人を援助するのか、ということが、グループワークの授業の内容だと思うのですが、それだけではなく、機関そのものを、どう変えていくのか、変えていかなければならないかというところも、大きなテーマとして毎年のように取り上げています。

[文学研究とクライアントの理解](#)

3つ目は、これはフランス文学を大学院で勉強したというワーカーのかたでしたが、文学の研究で作家を理解することと、クライアントを理解することとは同じだよ、とおっしゃったことが、とても印象に残っています。

スーパービジョンの楽しみ

1. 現場の指導者からの学び

- 援助動機について
- 福祉機関（病院）を変えること
- 文学研究とクライアントの理解

15

作家について書いている評伝を読むと、最低限、祖父、祖母のことから書いているでしょう、と。つまり一人の作家を理解しようと思えば、祖父、祖母の生き方までも理解しておかないと深い理解はできない。だからクライアントの理解も同じで、生きているかどうかは、別として三代前から理解することが必要だ、ということでした。

そこは10人ぐらいの人たちが共同生活をして、人格障害とか、依存症とかに向かい合おうという施設でしたが、それぞれが、どこで、どんな少年、少女時代をすごしたのか理解するために、みんなで、その人が通っていた小学校なんかに行ってみるんだということでした。作家の理解も同じでしょ、ということで、どういう土地、どういう風土で育ったのか、それを理解することが大切で、一人の作家を本当に理解するためには、その作家の生まれ育った土地に行ってみるものなんだよ、ということでした。

こんな感じで、私は実習先の指導者から、いろんなことを教わりました。みなさんは、いかがでしょうか。ちょっと、プリントの間2を見ていただけますか。

大学の教員が、みなさまの施設・機関に実習先訪問として行くことは毎年のようにあると思います。そこで、みなさまから教員に伝えたこと、逆に教員から伝えられたことで、みなさまの大きな学びになったという経験があれば、ふりかえってみてください。

つまり私が現場の指導者の方から学んだことは、とても多くあり、そのいくつかを紹介したわけですが、みなさまにも、それを考えてもらいたいということです。いかがでしょうか。

私の願いとしては学生のスーパービジョンを通して大学の教員と現場のソーシャルワーカーが、ソーシャルワークのことを語り合うということで互いに学び合うことがたく

さんあると思うのですね。それが第一の「スーパービジョンの楽しみ」ということでした。

スーパービジョンの楽しみ② 学生たちからの学び

では、2番目の「学生たちからの学び」について話します。これは、たくさんあるのですが、私が学生へのスーパービジョンを始めて3-4年くらいのことだったと思うのですが、なかなかスーパービジョンがうまくいかないのが、学生さんに「どうやったら、スーパービジョンがうまくいくのかなあ」と、ボソッと言ったところ、こんなふうに言われたんです。「先生、お口にチャックよ」って。かなりショックだったですよ。



なんだって、こっちは教えるのが商売で、しゃべってなんぼの世界だと思っていましたのに「黙っていてよ」ということですよね。これは、どういうことかということ、

大学のスーパービジョンというのは、グループで行うのです。だから学生たちで、いろいろ議論が弾むことがあります。そのとき教員が何か話すと、学生たちは、それを聞かないといけないでしょ。せっかく

自分たちで話が盛り上がっていたのに、先生が、いろいろしゃべりだすから困るというわけです。

学生たちは、実習生として現場に出ている、教員には理解できないけれども、学生どうしだったら理解できることが、たくさんあるわけですね。だからグループでスーパービジョンを行うのだったら、グループのディスカッションを大事にするということなんです。これは、けっこう私がずっと心に残っている言葉なんですね。

「死ね！」に共感できるか

それから次が「死ね！」に共感できるか、ということなんです。私が担当した学生の一人が、児童養護施設に実習に行きまして、もうずいぶん昔です。いまは児童養護施設に行った実習生たちは、とても楽しくてしかたがない、という話をよく聞きますが、昔は、グループホームも、あんまり無かったですし、子どもたちが、けっこう荒れていて実習生がいじめられるということがよくあったように思います。それで、これが、そのときの例なんですね。

児童養護施設に行ったら、子どもたちに「おはよう！」って挨拶したら、「死ね！」と言われたと。帰るときに「さようなら」と行ったら、やっぱり「死ね！」と言われた。「もう、あそこでは、『死ね！』が、挨拶の言葉なんです。私は、もう辛いです！泣きそうです」というわけですよ。

スーパービジョンの楽しみ

2. 学生たちからの学び

- 「先生、お口にチャック」
- 「死ね！」に共感できるか

18

私も、この学生になんて言ったらいいのか、わからなくて困ってしまいました。その学生は、実習は私が担当だったのですが、ゼミは別の先生で、その先生に相談したら「共感しなさい！」と言われた、ということですね。「でも『死ね！』に共感するって、どういうことですか。やっぱり私、死んだほうがいいのか、とか言うんですか」と、学生は言うわけです。

そのときは、私は結局、答えがみつからずに、そのまま何も言えなかったのですが、その次の週だったが、学生が、こんどは明るい顔をして、「死ね！」に共感できました！というのですね。

え？ どうやって共感したの？って聞いたら、死ね！という子どもを注意深く見てみた。すると、その子は、そのときは施設の勉強部屋から出てきたばかりだった、というのですね。ああ、ひょっとして、勉強がわからなくて、イライラしていたのかもしれないなと思って、「どうしたの、勉強、お姉さんといっしょにしようか」と声をかけると、「うん」と言って、手をひっぱって、勉強部屋に戻り、いっしょに教科書を開き出したと。

ああ、素晴らしいなあと思ったのですね。死ね！という言葉にとらわれずに、どういう状況で、そういう言葉を発したのかをよく観察して、その状況に応じた対応をすることで、これは学生が自分で考えたのか、それとも施設のスーパーバイザーからアドバイスをもらったのか、それは確認しませんでした。私は、すごく感動してしまって、このエピソードを実習指導の機会があるたびに話しているのですね。

「実習生とは話さないタイプ」

3つ目のエピソードは、これなんですよ。「実習生とは話さないタイプ」ということですが、これは、ある実習生が書いたノートに子どもとの対話が書かれてあったんですよ。それを読んで、びっくりしたのですが、ちょっと、みなさんにも読んでほしいのですが、こういう感じの対話でした。

子ども：私ってさあ、本当は、実習生とは話さないタイプなんだ。

学生：そうかあ。やっぱり見慣れない人が相手だと緊張するよね。オトナだって緊張するもん。

子ども：うん。だってさ、あんた誰？って感じじゃない。

学生：そうねえ。でも、いまは、話せているよね。

子ども：そうだよ。え。(嬉しそうに) やっぱ、◎◎さん(学生の名前)、無理に話そうとしな
いじゃない、それが、私には、いいのかな。

学生：そうかあ。ありがとう。



スーパービジョンの楽しみ

2. 学生たちからの学び

- 「先生、お口にチャック」
- 「死ね！」に共感できるか
- 「実習生とは話さないタイプ」

19

どうでしょうか。パッと見ただけでは普通の会話のようにも見えなくはないのですが、その学生さんは、いろいろ自分の意図とかを書いているのですね。

まず、最初「子ども：私ってさあ、本当は、実習生とは話さないタイプなんだ。」これは、どういう意味かということ、「私は、本当は、実習生とは話してあげないんだ、でも、あんたとは特別に話してあげるんだよ」という、いま流行りの言葉で

いえば、マウントを取るというか、私が上なんだよ、ということをする言葉だと思うのですよ。

この実習先は、以前は「情緒障害児短期治療施設」と言われていた施設で、いまは児童心理治療施設といいますが、いろいろ心理的な問題をかかえた子どもさんがいる施設なのです。だから対等な関係よりも、上下関係に人間関係をしてしまっ、そのなかで相手をコントロールするという流れに持ってくるということは、考えられることだと思うのです。

それに対して、学生は「そうかあ。やっぱり見慣れない人が相手だと緊張するよね。オトナだって緊張するもん。」って答えています。これが見事だと思うのですよ。もともとは、マウントをとるような発言だったのを、そこに子どもの不安が入っているということを気づかせる発言になっていますね。でも、その不安を、その子どもだけがもっているものではなくて、オトナだって、みんな持っているからね、というような安心させる、共感するような内容になっています。

すると、こんどは、子どもが「うん。だってさ、あんた誰？って感じじゃない。」「学生：そうねえ。でも、いまは、話せているよね。」これもうまいと思うのですよ。つまり、そういう不安はあるけれども、いまは、あなたは話せているよね、ということ伝えて、自信をもたせるようにもっていつているわけですね。

子ども：私ってさあ、本当は、実習生とは話さないタイプなんだ。

学生：そうかあ。やっぱり見慣れない人が相手だと緊張するよね。オトナだって緊張するもん。

子ども：うん。だってさ、あんた誰？って感じじゃない。

学生：そうねえ。でも、いまは、話せているよね。

子ども：そうだよ。 (嬉しそうに) やっぱ、◎◎さん (学生の名前)、無理に話そうとしないじゃない、それが、私には、いいのかな。

学生：そうかあ。ありがとう。

20

すると、子どもは認められて嬉しいわけですから、「そうだよね。」と、嬉しそうに答えるわけです。続けて「やっぱ、◎◎さん (学生の名前)、無理に話そうとしないじゃない、それが、私には、いいのかも。」「学生：そうかあ。ありがとう。」ここで、ありがとう伝えることによって、自分は、自分に対する肯定的なメッセージを、そのまま素直に受け止めるというモデルを見せているわけですね。

ソーシャルワークでは意図をもった対話を続けていくのだと良くいいますけれども、その意図をもった対話をするのは、かなり難しいはずですが、この対話をノートに書いて残したということは素晴らしい能力だなと思いました。

これは、ひとつの例ですけれども、こういう学生たちの素晴らしい実践を知るということは、私のスーパービジョンの大きな楽しみになっているのですね。

それで、次の問題ですが、問3です。実習生の素晴らしい実践等に感銘を受けたという経験は、みなさまにもきっとあると思います。それを振り返ってみてください。ちょっと、考えていただけますか。どうぞ。

学生たちから学ぶということは、よくあるのではないのでしょうか。そこが、教える立場の面白さということにつながるのだと思います。さて、次は最後の楽しみですね。

スーパービジョンの楽しみ③ 実践からの学び

これは実践からの学びということです。どういうことかということ、現場の指導者のみな

スーパービジョンの楽しみ

1. 現場の指導者からの学び
2. 学生たちからの学び
3. 実践からの学び

21

さまには、ちょっと意外に思われるかもしれませんが、社会福祉学科の教員のなかで臨床系の教員といえますか、狭い意味でのソーシャルワークの教員というのは、いわゆる社会福祉の現場で働くことを職業とはしていないけれども、自分自身もソーシャルワーカーであるという自覚があると思うのですよ。

少なくとも私は自分自身はソーシャルワーカーだと思っています。社会福祉士の資格は持っていないんですけど、国家資格とは関係なしに、ソーシャルワークはできると思っていることもありますし。

それで、私が大学院生だったか、あるいは上智大学で働き始めて間もないときだったか、時期ははっきり覚えていないのですが、やはり私と同世代の社会福祉学科の教員が「俺たちは福祉の現場を持っていないと言われていたけどさ、実際には福祉教育の現場にいるんだよ」と大きな声で言ったのを聞いたことを、いまでも覚えているんですね。

つまり福祉教育の現場というのは、大学の大教室のなかでの講義というよりは、実習スーパービジョンの場にある、というイメージなんですよ、私にとってはね。

もっと、はっきり言ってしまえば、自分では、自分のことをソーシャルワーカーだと思



っているのに、大学という教育の現場にいるために、福祉の現場から遠くはなれてしまっているという（正直いって残念な）思いがあるわけですが、実習スーパービジョンを通して、ソーシャルワークができるような感覚があって、それを実践からの学びと書いておきました。

まず、学生たちのレジリエンスと書いておきましたが、実習生の一部です

が、たいへんな状況のなかで実習をしている人がいます。その状況を教員に言う場合もあるし、言わない場合もあるのですが、、、。苦しい状況の代表的なものは、これですね。

要介護者の家族、経済的な困難

要介護者の家族、それに経済的な困難ですね。あとは、ご本人の心身の状況があります。個人が特定されないように詳細な部分を変えたうえで、注意してお話しますが、たとえば、同居している親に精神的な疾患があり、働けなくて、自分がアルバイトをして学費と生活費をかせいでいる人がいて、実習をするために何年も前から貯金しているわけですよ。

つまり、実習費はかかるし、実習する期間は、バイトができないから収入はゼロになるわけですね。で、本当にギリギリのなかで生活していて、だから、友達と、どっかに遊

びに行っても、友達と同じパフェとか注文できないし、だいたいバイトで遊ぶ時間もないわけですね。

じゃあ、奨学金があるじゃないかと言いますけど、たしかに、その学生さんは、たくさん、いろんなところから奨学金を受けていました。しかし、その奨学金は成績が下がると打ち切られるのではないかと、すごく気にしていました。

だから試験前になって自分が不安になると、精神疾患をもった親も不安になって、夜中じゅう親が泣きわめくということになり、その結果、学生さんも、夜ねむれないし、試験前の勉強もできないし、それでも成績が下がれば、奨学金が切られて、退学しなければいけなくなるし、ということで、もう生きていられないというのですね。

学生さんで鬱になって休学するという人は、よくいらっしゃるのですが、逆に言えば、鬱になって休学できる経済的余裕があるということなんですよ。

その人の場合は、鬱になって休学になれば、奨学金が打ち切られて二度と大学に戻れないという状態でした。だから、鬱にもなれない。本当につらそうでした。それでも実習だけは終えたいということで、私は応援して、結局、休学にもならず、社会福祉士の国家試験にも合格していました。

この学生さんが、本当にたいへんななかを実習をして、休学もせず、卒業して国家資格も取って、ということを見ることができたというのも、これも、その学生の実習スーパービジョンをしたという関係性があつたからこそではないかなと思っています。

実習のスーパービジョンのなかでは、個別には、どういう生活状況にあるということを知ることがあるんですね。これが、大教室のなかで、講義をする、講義を聞くという関係のなかでは、この学生さんの応援とか見守りはできなかったように思います。

あるいは、両親と死別していて、要介護者が同居している家族に2人もいて、自分が、すべての家事をやって、介護もやって、ケアマネージャーやデイサービス機関との対応もやって、学費と生活費を稼ぐためにバイトもやってという本当にすごい生活をしている女子学生がいました。そこで頼れる男性が現れたというのは、いいんだけど、実習前に妊娠してしまって、どうしたらいいかと相談されたことがありました。ちょうど出産の時期と実習の時期が重なってしまいそうだったということでした。それで、実習先にお話をしたら、よく理解してくださって妊婦さんの身体のことにも配慮していただき、無事に実習が終わったということがありました。

大学の教員は、みんな、ゼミというのを持っていて、私もゼミをもっています。そのゼミの学生たちとは合宿に行ったり、毎週、授業で話し合ったりしますが、そのゼミの学生の人生にかかわる経験があるかということ、なんか、あんまりないですね。思いつかないんです。

そのゼミの学生に実は、いろいろ事件とか起こっていた、大きな病気になっていたとか、それは、ゼミの担当教員である私ではなく、その学生の実習担当教員が知っていたりするんですね。不思議なことですが、そういうことがよくあります。

たぶん普通の授業だと、理知的な知識の部分だけに関係するのですが、実習スーパービジョンをする関係だと、その学生の、心や身体、家族の状況や、経済的な状況などが関係してきますし、また、その生い立ちや生育歴を耳にすることもありますよね。だから、ちょっとゼミの学生と関係性が違うのですね。

何が言いたいかというと、学生たちへの実習スーパービジョンは、学生たちへのソーシャルワーク的な援助になることも、たまにあるのです。いつも、ではないですよ。たまに、ですが。

それで、その学生が、いろんな困難をかかえてながらも力強く生きていくという姿を見ることができるんですね。それがスーパービジョンの楽しみ、というか、喜びの一つでもあるということです。

それでは、またプリントを見ていただけますか。問題4 学生たちの力強いレジリエンス、人生の歩みに心を打たれたという経験について、あれば、それを振り返ってみてください。ということです。少し、考えてみてください。

まとめ

はい、では、まとめに入ります。スーパービジョンの楽しみということで、3つを取り上げてお話させていただきました。

スーパービジョンの楽しみ

1. 現場の指導者からの学び
2. 学生たちからの学び
3. 実践からの学び

24

みなさまにとって実習スーパービジョンの楽しみは何でしょうか。私のお願いは、現場のかたも、大学の教員も、実習スーパービジョンの楽しみを大切にしていただき、楽しんで、学生のスーパービジョンをやっていただきたいということです。

そうすれば、学生たちも、実習をいっそう楽しいと感じるようになりますし、その結果として、社会福

社の発展に寄与する人材になっていくのだと思います。

私の30年という大げさなサブタイトルをつけましたが、私の実習指導で、どういうことをやってきたかということは、私は自分で5年ほど前に作ってしまして、それが、この「実習のヒント」というものなのですが、このe-book版は、このプリントのQRコードから、無料でダウンロードできるようにしていますので、もし機会がございましたら、参考にいただければ幸いです。本日は、ご清聴ありがとうございました。

2023. 09. 21. 14:10-15:10 場 所：上智大学中央図書館 9 階 921 会議室（東京都千代田区）
ソーシャルワーク実習スーパービジョン勉強会

スーパービジョンの楽しみ：この 30 年を振り返って

上智大学 岡 知史

スーパービジョンの楽しみ

1. 現場の指導者からの学び
2. 学生たちからの学び
3. 実践からの学び

9



問題 1

みなさまが「あなたにとって、スーパービジョンの楽しみは何ですか」と聞かれたら、どのようにお答えになりますか。

問題 2

大学の教員が、みなさまの施設・機関に実習先訪問として行くことは、毎年のようにあると思います。そこで、みなさまから教員に伝えたこと、逆に教員から伝えられたことで、みなさまの大きな学びになったという経験があれば、ふりかえってみてください。

問題 3

実習生の素晴らしい実践等に感銘を受けたという経験は、みなさまにもきっとあると思います。それを振り返ってみてください。

問題 4

学生たちの力強いレジリエンス、人生の歩みに心を打たれたという経験について、あれば、それを振り返ってみてください。

「実習のヒント ver.9」は下の URL または右の QR コードからダウンロードできます。

<https://researchmap.jp/tomofumioka/misc/40337303>

「岡知史 実習のヒント」で検索しても出てきます。



各位

上智大学総合人間科学部社会福祉学科
学科長 岡 知史

ソーシャルワーク実習スーパービジョン勉強会のご案内

暑さ厳しき折、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本大学総合人間科学部社会福祉学科『社会福祉実習Ⅰ・Ⅱ』におきまして多大なるご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、3年に亘り続きましたコロナ禍もようやく落ち着きを見せ、本学でも通常の教育体制を取り戻しつつあります。そこで今年度のソーシャルワーク実習スーパービジョン勉強会は、4年振りに対面での開催を企画致しました。

今回は、岡知史により「スーパービジョンの楽しみ～この30年を振り返って」と題し、講演をさせていただきます。1987年に当学科に着任し、お陰様でこれまで30年間、学生の教育と研究に当たってまいりました。この30年間の当学科での教育と研究を振り返りながら、今年度より開始となった新カリキュラムにおける実習でのスーパービジョンや、実習先機関様と養成校との連携などについてご意見を賜れる機会にできればと考えております。

また勉強会終了後に、当学科で2024年度より導入を検討しております「ソーシャルワーク実習支援システム」について提供元の富士フィルムシステムサービス株式会社様よりご説明いただく時間を設けました。お時間をごございましたらご自由にご参加いただければ幸いです。

皆様にはご多用のところ誠に恐縮ではございますが、何卒お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

— 記 —

日 時：2023年9月21日（木）14：00～16：00
（16：00～16：30 実習支援システムについての説明）

場 所：上智大学中央図書館9階921会議室
（同封の案内図をご覧ください。当日は中央図書館1階入口にてご案内致します。）

《プログラム》

講 演：「スーパービジョンの楽しみ～この30年を振り返って～」
講 師：上智大学総合人間科学部社会福祉学科長 教授 岡 知史
時 程：14:00～14:10 開会挨拶・プログラムの説明
14:10～15:10 上記講演（質疑応答を含む）
15:10～15:20 休憩
15:20～15:50 グループディスカッション（実習指導の課題等）
15:50～16:00 発表およびまとめ・閉会挨拶
16:00～16:30 「ソーシャルワーク実習支援システム」説明
（富士フィルムシステムサービス株式会社様）

《お申込み》

ご出席いただける方は、お手数ですが下記 URL または QR コードでお申込みをお願い致します。
<https://forms.gle/KVtDQnKUiGHW5nwbA>

恐れ入りますが9月7日(木)迄にご連絡いただければ幸いです。
なお、当日はご印鑑をご持参くださいますようお願い申し上げます。
ご不明な点はお手数ですが社会福祉実習室までお問い合わせください。



以上

《連絡先》 社会福祉実習室 TEL：03-3238-3677
（月～金 10：00～11：30、12：30～17：00） mail：dsocser@sophia.ac.jp